

### 気象学術用語の日本語訳について

常任理事会 (担当: 小倉義光常任理事)

近ごろ日本語の論文や解説を書くとき、英語の気象用語の適当な日本語訳がないので、困ることがしばしばあります。短い英語ならばカタカナで書いていますが、長い言葉ではそうもいきません。順不同で例をあげてみます。

severe weather や severe storm. これらの言葉はよく使われており、便利なので日本語でも使いたいのですが適訳がありません。severe weather を異常天気と訳したらどうかという提案をきいたことがあります。異常という言葉は出現頻度に関連した意味合いが強い。一方、severe winter などを使うように、severe には、きびしいとか苛酷などといった対人間関係の意味合いが強いように思います。

thunderstorm. ふつう雷雨と訳していますが、雷雨に伴って落雷・竜巻・ダウンバースト・突風・降ひょうなどがおこることがあり、あらしの感じがないので「雷雨あらし(嵐)」というのはいかがでしょうかという提案をきいたことがあります。

tilting term. これは数値予報などで「立ち上り項」と訳しています。一方、近頃ではスーパーセルという言葉は、気象予報士受験用の講習会資料にもでてくるほど一般化されつつあります。そしてスーパーセルで渦度の鉛直成分が発生発達する過程として、Klemp が描いた図は最近の教科書、Cotton と Anthes (1989), Houze (1993), Emanuel (1994) のすべてに引用されています。この図では、もともと水平に横たわっていた渦管が、上昇流によって押し上げられ、次に下降流によって押し下げられています。

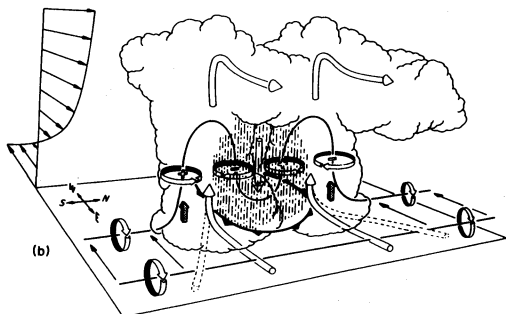
これについて思い出すのは、たしか1940年代の終りか1950年代の初めに、故正野重方先生がトーシャ版刷

りの Geophysical Notes にお書きになった竜巻の発生理論です。それによると、大気中に厚さは薄い強いシア層(すなわち水平渦)があり、大気成層が不安定だから、水平渦の先端が象の鼻のように垂れ下がったものが竜巻であることになります。つまり、水平渦管の立ち上りでなく、垂れ下がりを議論していることになります。

もともと tilting には上下の区別はないのですから、素直に「傾き項」とか「傾斜項」とか呼んだ方が適当だと思います。

outflow と inflow. 成熟期あるいは衰弱期にある積乱雲の雲低下にたまった冷氣プールあるいは冷氣ドームからの流れが cold outflow で、これが対流セルの自己増殖作用をおこし、メソ対流系の形成に大きな役割を果たします。私は専ら「冷氣外流出」と訳してきました。しかし、外流出では自己の意志で流れ出たみたいでよくないという反対意見もあり、それよりも反対語の inflow をどう呼ぶか悩んでいます。吹きだしと吹きこみならば対になっていいのですが、北西季節風に伴った寒気の吹きだし(outbreak)が既に定着しています。それに outflow は吹きだしという現象ではなく、流れであることをいいたいのです。

雲微物理学。この分野でもまだ定訳がない用語がいくつもあるようです。東京大学海洋研究所の坪木和久さんと雑談の際、そうした用語と、目についた日本語訳をリストしてみました。coalescece, collection, accretion をどう訳し合わせるかが問題ですが、逆に全



英語	日本語
nucleation	核化・核形成
ice multiplication	氷晶増殖過程
ice fragmentation	――
ice sprinter	氷のかげら
embryo	胚芽・エンブリオ
coalescence	(付着) 併合
collection	(衝突) 併合
accretion	併合成長
(vapor) deposition	付着・沈着・凝結晶華
riming	着氷・捕捉成長
aggregation	凝集

部を併合として記述してもいいのかもしれませんが。以上日本語の問題について、どう処置していいかわかりません。1つの考え方は、これこそ気象学会

の役目の1つだから、気象学会が用語委員会でも作って、そこでコンセンサスが得られたものを順次に会員に推薦する。会員は多少気に入らない訳でも、なるべくそれを使うようにする。もちろん、いかに委員会御推薦でも、あまり会員に受け入れられなければ、(たとえばE電という言葉のように)やがて自然消滅するだろう。

これと対極にある考え方は、この忙しい御時勢に、1つ1つの言葉の訳をぐだぐだ委員会で議論する閑はないから、従来通りほっておく、多少の混乱はあるかもしれないが、いい訳は他の人も使うだろうから、やがてはそれが定着していく、というものです。

私自身はどう対処していいのかわからないので、

1月の常任理事会で、議題としてではなく、話題として問題提起しました。その結果、まず「天気」に投稿して会員の反応をみてほしいということでしたので、これを書いた次第です。上記の用語の日本語訳・たくさんあると思いますが、上記以外で定訳が望ましい用語・この問題について日本気象学会の対応の仕方などについて、日本気象学会事務局気付小倉義光宛、郵便またはFax (03-3216-4401) にて御意見をお寄せ下さいますようお願い致します。現行の文部省の学術用語集は間もなく改訂を要するほど古くなっていると思われまので、改訂の際あわててお粗末な編集をするよりは、ふだんから心がけておく方がいいと思っています。(1996年2月12日記)

### 日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
1996年度日本海洋学会 春季大会	1996年 4月 7日 ～11日	日本海洋学会	東京大学教養学部 (東京都目黒区)	大会実行委員会事務局 (東京大学海洋研究所) Tel. 03-5351-6460 Fax. 03-5351-6461
日本気象学会 1996年度春季大会	1996年 5月21日 ～23日	日本気象学会	大宮ソニックシティ (埼玉県大宮市)	気象学会大宮96事務局 (東京大学海洋研究所 海洋気象部門) Tel. 03-5351-6523 Fax. 03-3377-3395
第33回理工学における同位 元素研究発表会	1996年 7月 1日 ～ 3日	日本アイソトープ協会	国立教育会館 (東京都千代田区)	理工学における同位元素 研究発表会運営委員会 (日本アイソトープ協会) Tel. 03-3946-9681
日本農業気象学会 1996年度全国大会	1996年 7月29日 ～31日	日本農業気象学会 (日本生物環境調節学会 と合同開催)	宇部全日空ホテル (山口県宇部市)	山口大学農学部 谷 宏 Tel. 0839-22-6111(内424) Fax. 0839-22-6607
第19回国際理論・応用力学 会議	1996年 8月25日 ～31日	International Union of Theoretical and Applied Mechanics (IUTAM)	国立京都国際会館 (京都市)	事務局 渡邊英一 Tel. 075-753-5079
第14回風工学シンポジウム	1996年12月 4日 ～ 6日	日本学術会議 災害工学研究連絡委員会	日本学術会議講堂 (東京都港区)	第14回風工学シンポジウム 運営委員会事務局 (社団法人電気学会調査課) Tel. 03-3201-0983 Fax. 03-3201-1983